

企業による

都立工業高等専門学校・都立航空工業高等専門学校卒業生

に対する評価と要望

－都立高専卒業生に係る企業アンケートの結果報告－

目次

1	調査の背景と目的	2
2	調査方法	
2.1	調査方法	3
2.2	スケジュール	3
2.3	依頼企業の分類	3
2.4	集計結果の吟味と精度	3
3	調査結果	
3.1	回収結果	4
3.2	どのような職種での採用であったのか	4
3.3	高専卒業生を採用した理由	5
3.4	本校卒業生は期待に込えているかについて	
3.4.1	退職者卒業生がいるか	6
3.4.2	期待に込えているか(将来込えうるか)	6
3.5	過去の卒業生との比較	7
3.6	他校の高専生との比較	8
3.7	項目毎の結果	9
3.8	大学生との比較	11
3.9	本校の教育目標に対する卒業生の充足度	12
3.10	本校の教育について望むこと	13
3.11	専攻科教育に何を期待されるのか(自由回答)	14
3.12	各能力と本校の教育に望む事項との関係	14
4	分析と対応	15
5	まとめ	16
6	付録(アンケート用紙)	16

東京都立産業技術高等専門学校 教育企画改善室
平成 22 年 5 月

1 調査の背景と目的

都立工業高等専門学校と都立航空工業高等専門学校の2校は昭和37年に設置されました。両校は5年間の実践的技術者教育に基づき多くの中堅技術者を産業界に輩出し、日本の産業振興に大きく貢献してきました。

しかし、今企業が求める人材は高度経済成長期を支えた中堅技術者から、企画力や開発力を兼ね備えた専門性のより高い実践的技術者へと移行しています。また、少子化による15歳人口の減少や団塊世代の大量退職に伴う技術や技能の継承、後継者の確保・育成の必要性など、高等専門学校を巡る状況は大きく変化しています。

こうした状況の変化に的確に対応するため、平成18年度に二つの都立高等専門学校を再編統合し、新たに東京都立産業技術高等専門学校を設立し、5年の本科に加え2年の専攻科を開設しました。

さらに平成20年4月、本校は東京都教育委員会から公立大学法人首都大学東京に移管され、同法人の下で、首都大学東京および産業技術大学院大学との一体的な経営を行う環境が整いました。これにより本校においても、大学、大学院と同様に、特色ある教育が求められると同時に、経営の効率化、変革のスピードアップ、国際化など変化に柔軟に、かつ効率的に対応する姿勢が求められています。また、学校の取組みを外部から評価して頂くような客観的な評価指標も必要になってきています。

そのような中、新高専である東京都立産業技術高等専門学校が完成年度を迎える今年、本校の教育水準の向上や教育内容の充実と改善を目的として、各企業から見た本校卒業生に対する評価と要望に関するアンケート調査を実施しました。

その結果、多数の貴重なご指摘と率直なご評価を頂くことができました。今後、集計したアンケートの調査結果踏まえ、本校の教育方針、教育内容や教育体制に的確にフィードバックし、改善と一層の充実に努めてまいります。

最後に年末・年始の忙しい時期に、アンケートにご協力頂きました多くの企業関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

平成22年5月7日
東京都立産業技術高等専門学校
校長 荒金 善裕

2 調査方法

2.1 調査方法

都立工業高等専門学校（工業高専）及び都立航空工業高等専門学校（航空高専）卒業生を対象として、平成22年度求人票の送付企業に対してアンケートを依頼した。



6 付録（アンケート用紙）内容を参照

2.2 スケジュール

平成21年12月18日	平成22年度求人票を発送する企業に対し、アンケートの依頼を行う。
平成22年1月31日	企業からの回答期日とする。
平成22年2月	回答結果の集計、グラフ化及び分析
平成22年2月24日	本校教育企画改善室会議において、結果報告
平成22年3月	アンケート回答企業に御礼状を発送
平成22年5月	報告結果を本校ホームページに掲載

2.3 依頼企業の分類

依頼した企業を資本金が3億円以上で従業員の人数が300人以上を大企業とし、それ以外を中小企業と分類した。

2.4 集計結果の吟味と精度

今回アンケートにご回答いただいた企業は、全体の1割弱である。割合としては少ないが、前年度に試行で実施したアンケートの回答企業数が36社であったのに対し、今回は124社であるため、今後の本校の教育改善を検討する上でサンプル数を確保した点では有効な調査であると判断する。

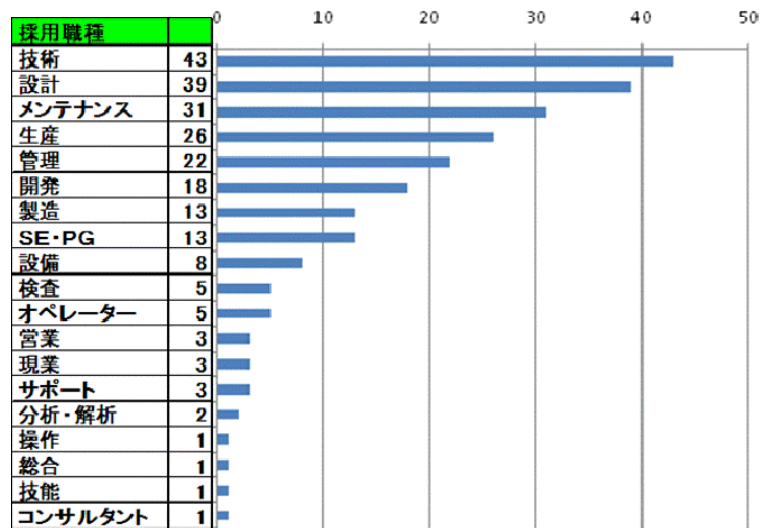
3 調査結果

3.1 回収結果

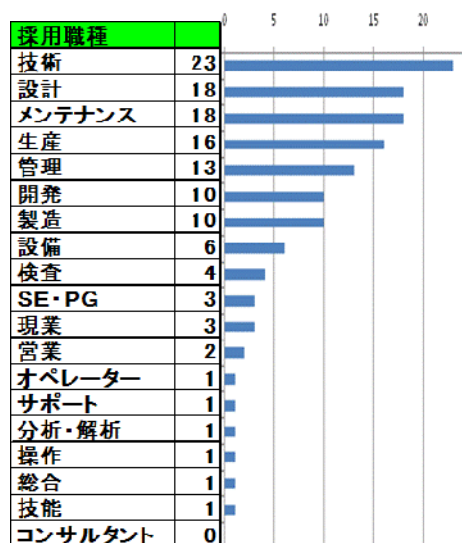
回収結果の詳細を以下の表にまとめた。回答率は9.3%である。

送付数	1,329	社 社
回答企業数	124	
回答率	9.3%	

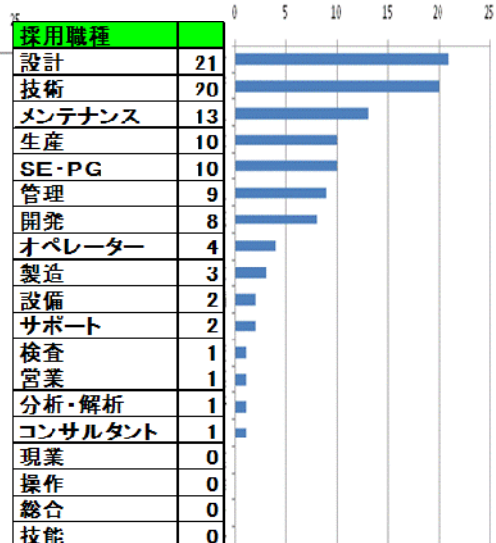
3.2 どのような職種での採用であったのか



大企業

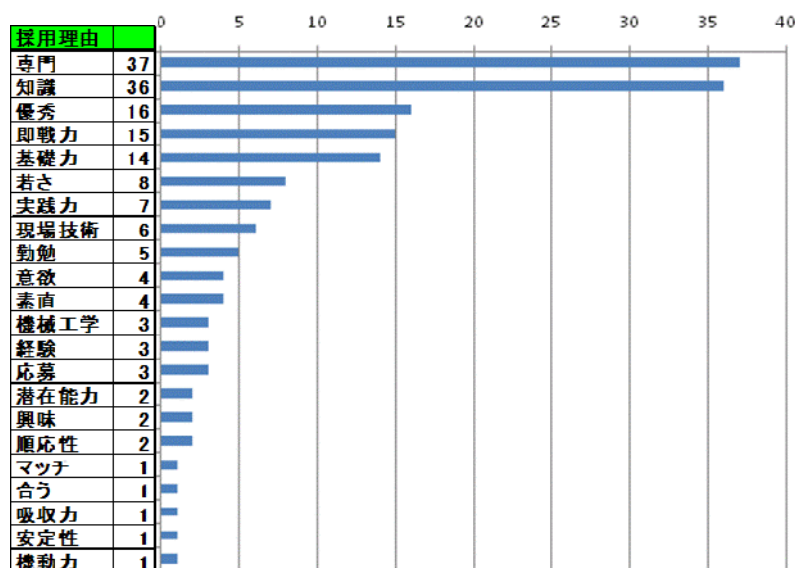


中小企業

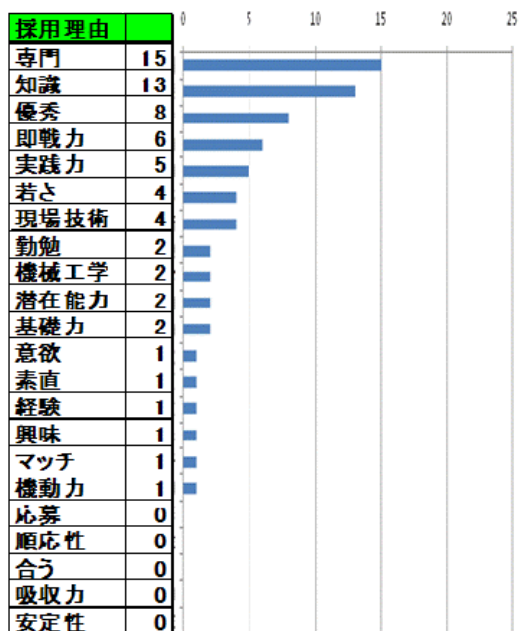


技術、設計及びメンテナンスでの採用が多く、全体の半数近くを占めている。次に生産、管理、開発、製造、SE・PG、設備と続き、これらを含めると全体の9割近くになる。これは、ものづくり教育を実施している高専に合致した職種での採用が多いことを示している。また、大企業と中小企業の差はほとんどない。

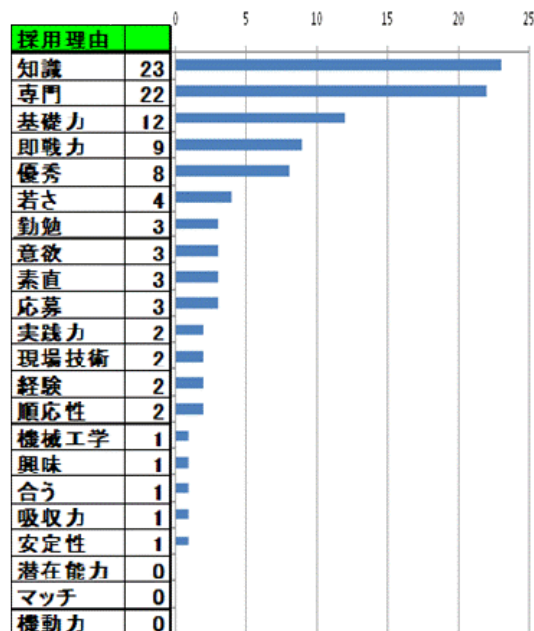
3.3 高専卒業生を採用した理由



大企業



中小企業



技術的な専門性や知識を持っていることを理由に高専卒業生を採用する企業が多い。企業側は、高専生がこれらの能力をもっていることに注目し、採用を行っていると言える。

また、大企業と中小企業の傾向に差はほとんどないが、中小企業で基礎力の評価が目立った。

3.4 本校卒業生は期待に応えているかについて

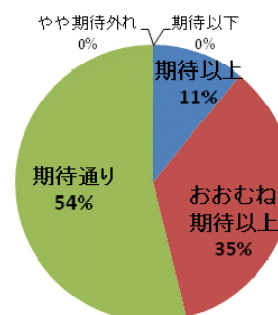
3.4.1 退職者卒業生がいるか

企業数	21社
人数	43人

今回ご回答いただいた企業124社に対し、本校の卒業生が退職した企業は21社である。これは、おおむね本校学生の離職率は低い。

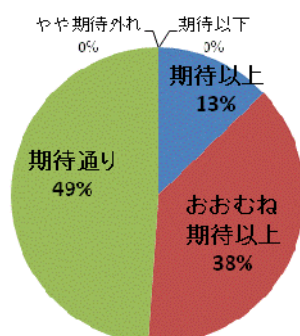
3.4.2 期待に応えているか（将来応えうるか）

質問項目		
ア	期待以上	11
イ	おおむね期待以上	36
ウ	期待通り	56
エ	やや期待外れ	0
オ	期待以下	0



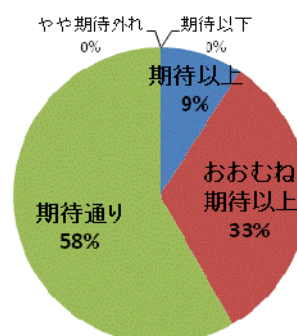
大企業

質問項目		
ア	期待以上	6
イ	おおむね期待以上	18
ウ	期待通り	24
エ	やや期待外れ	0
オ	期待以下	0



中小企業

質問項目		
ア	期待以上	5
イ	おおむね期待以上	18
ウ	期待通り	32
エ	やや期待外れ	0
オ	期待以下	0

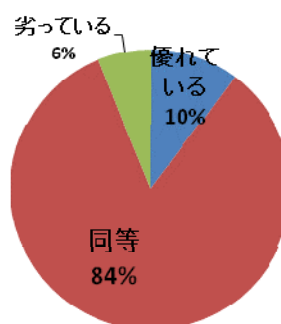


全体としては、「期待通り」が半数以上を占め、その他の回答は「期待以上」、「おおむね期待以上」である。特に大企業においては、「期待以上」、「おおむね期待以上」と回答した企業が半数以上を占めた。

「やや期待外れ」、「期待以下」と回答した企業は皆無であったため、本校の卒業生は全般的に企業の期待に応えていると判断できる。

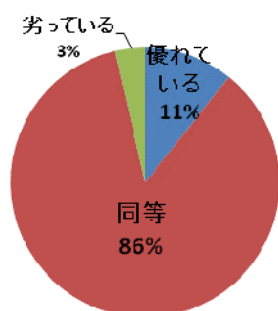
3.5 過去の卒業生との比較

質問項目		
ア	優れている	5
イ	同等	44
ウ	劣っている	3



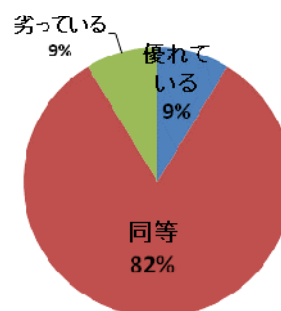
大企業

質問項目		
ア	優れている	3
イ	同等	25
ウ	劣っている	1



中小企業

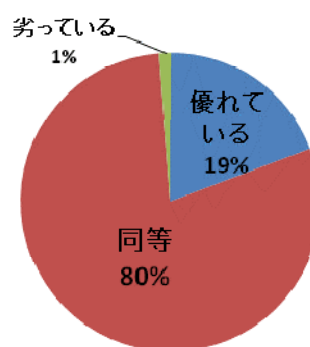
質問項目		
ア	優れている	2
イ	同等	19
ウ	劣っている	2



過去の卒業生と比較した最近の卒業生の印象について回答した企業のうち、全体の84%が「同等」と評価しているため、過去の卒業生との違いをそれほど感じていないことがうかがえる。また、企業の規模による差はほとんどない。

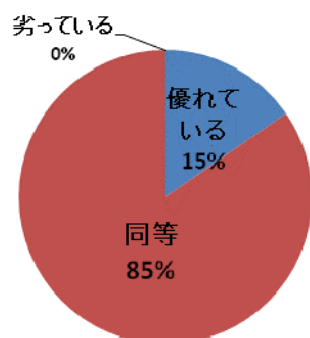
3.6 他校の高専生との比較

質問項目		
ア	優れている	15
イ	同等	63
ウ	劣っている	1



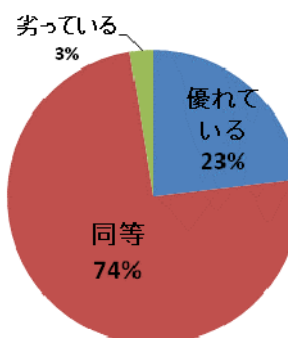
大企業

質問項目		
ア	優れている	6
イ	同等	34
ウ	劣っている	0



中小企業

質問項目		
ア	優れている	9
イ	同等	29
ウ	劣っている	1

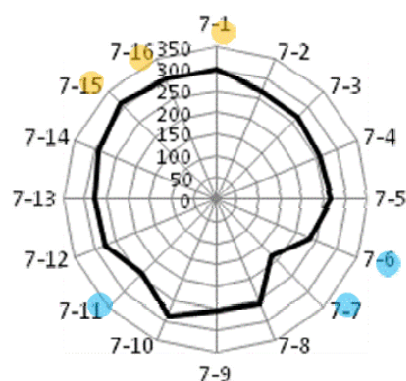


他校の高専生と比較した本校卒業生の印象について回答した企業のうち、全体の80%が「同等」と評価している。「優れている」と回答した企業も19%であるため、本校卒業生の印象はおおむね良好である。

中小企業においては、「優れている」と回答した企業が4分の1近くを占めている。

3.7 項目毎の結果

質問項目	非常に思う	思う	どちらでもない	思わない	まったく思わない
7-1 工学や技術に関する専門知識がある	12	72	17	1	0
7-2 データ処理能力が高い	6	55	39	1	0
7-3 問題解決能力が高い	7	50	43	2	0
7-4 情報収集能力が高い	4	47	50	1	0
7-5 創意工夫ができる	4	56	40	1	0
7-6 プレゼンテーション能力が高い	3	29	65	4	0
7-7 英語力が高い	1	10	60	27	2
7-8 一般常識がある	5	49	43	4	0
7-9 コミュニケーション能力が高い	8	40	49	4	0
7-10 仕事ののみこみが早い	11	63	27	0	0
7-11 リーダーとしての資質がある	7	30	58	6	0
7-12 チャレンジ精神がある	13	46	42	1	0
7-13 行動力がある	14	49	37	1	0
7-14 協調性がある	17	58	25	1	0
7-15 勤勉である	25	57	20	0	0
7-16 責任感がある	19	59	23	0	0



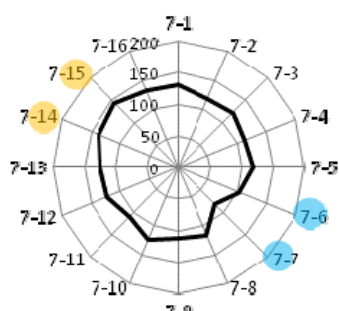
強い所

- 15. 勤勉である
- 1. 工学や技術に関する専門知識がある
- 16. 責任感がある

弱い所

- 7. 英語力が高い
- 6. プレゼンテーション能力が高い
- 11. リーダーとしての資質がある

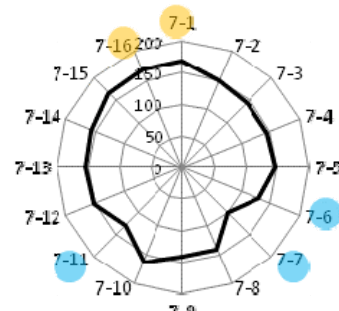
大企業



- 15. 勤勉である
- 14. 協調性がある

- 7. 英語力が高い
- 6. プレゼンテーション能力が高い

中小企業



- 1. 工学や技術に関する専門知識がある
- 16. 責任感がある

- 7. 英語力が高い
- 6. プレゼンテーション能力が高い
- 11. リーダーとしての資質がある

※レーダ・チャートについて

各質問項目のポイントは、

「非常に思う」の回答数×4+「思う」の回答数×3+「どちらでもない」
×2+「思わない」の回答数×1+「まったく思わない」の回答数×0

で算出した。

全体では、「工学や技術に関する専門知識がある」、「勤勉である」、「責任感がある」のポイントが高く、「プレゼンテーション能力が高い」、「英語力が高い」、「リーダーとしての資質がある」が低かった。

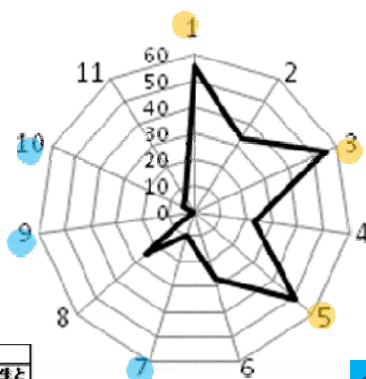
大企業では、「勤勉である」、「協調性がある」のポイントが高かったため、本校卒業生の勤務態度に好印象を持っているものと思われる。

中小企業では、「責任感がある」が高く、「リーダーとしての資質がある」が低い。これは、企業の中核として位置付けたいものと思われる。

3.8 大学生との比較

質問項目		
1	若い	56
2	厚みがある	33
3	専門能力がある	55
4	対応能力がある	23
5	勤勉である	51
6	責任感がある	27
7	創造力がある	10
8	協調性がある	25
9	リーダーの資質がある	1
10	問題解決能力がある	5
11	その他	7

正直である
 大卒や院卒はリーダーやシステムエンジニア候補生と
 考えております。高専や情報専門学校卒生はまずソフトウェア
 エンジニア(プログラマー)としてのスキルを社会(各職種)で
 高めてもらいたい。その後は個人の能力や才能で力を伸ばし
 てほしい。
 質問は、高専の卒業生が概ね40代以上のため答えづらいです。
 正直
 6と似ておりますが、おぼろげさを感ずります。
 大学生がいらないため比較不能
 大学生は採用していない



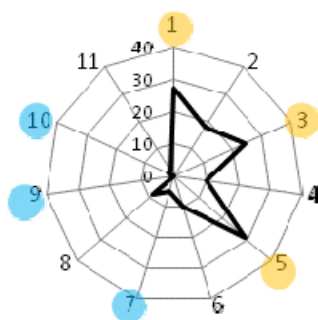
強い所

- 1. 若い
- 3. 専門能力がある
- 5. 勤勉である

弱い所

- 9. リーダーの資質がある
- 10. 問題解決能力がある
- 7. 創造力がある

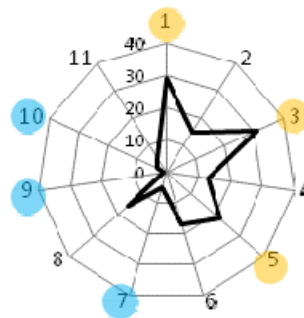
大企業



- 5. 勤勉である
- 1. 若い
- 3. 専門能力がある

- 9. リーダーの資質がある
- 10. 問題解決能力がある
- 7. 創造力がある

中小企業



- 3. 専門能力がある
- 1. 若い
- 5. 勤勉である

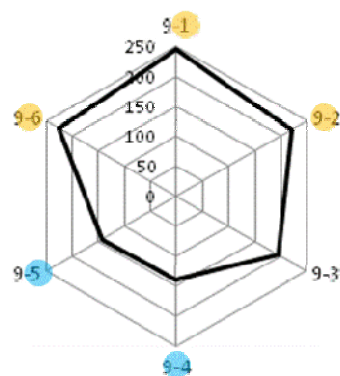
- 9. リーダーの資質がある
- 10. 問題解決能力がある
- 7. 創造力がある

大学生との比較で評価が高いのは「若い」、「専門能力がある」及び「勤勉である」であるが、特に「専門能力がある」については実験・実習を行っている高専生の特徴である。

一方、「創造力」、「リーダーシップ能力」及び「問題解決能力」において、大学生との能力差を少なくしていくことが課題である。企業の規模による違いはほとんどない。

3.9 本校の教育目標に対する卒業生の充足度

質問項目	十分満たしている	ある程度満たしている	普通程度	あまり満たしていない	まったく満たしていない
9-1. 工学的知識・技術の基礎基本が身に付いている	16	46	21	1	1
9-2. 進んで課題を発見し、解決しようとする姿勢が見られる	10	34	38	2	0
9-3. 豊かな教養と倫理観が身に付いており、広い視野を持っている	4	24	51	5	0
9-4. 国際社会で活躍する基礎となる英語力が身に付いている	1	2	54	22	4
9-5. 国際感覚が豊かである	1	2	57	20	3
9-6. 企業が求める即戦力型の実践的技術者である	10	40	31	3	1



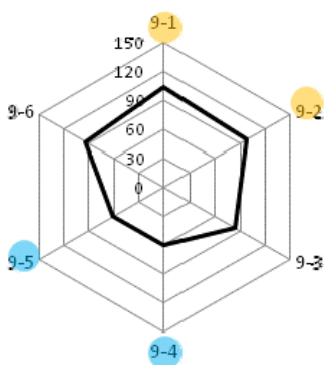
合致している

- 1. 工学的知識・技術の基礎基本が身に付いている
- 6. 企業が求める即戦力型の実践的技術者である
- 2. 進んで課題を発見し、解決しようとする姿勢が見られる

合致していない

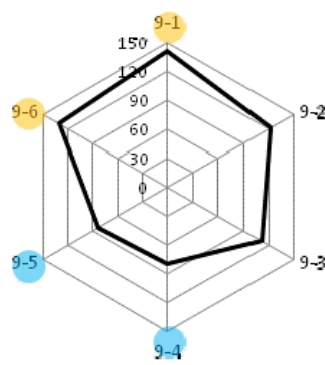
- 4. 国際社会で活躍する基礎となる英語力が身に付いている
- 5. 国際感覚が豊かである

大企業



- 1. 工学的知識・技術の基礎基本が身に付いている
- 2. 進んで課題を発見し、解決しようとする姿勢が見られる
- 4. 国際社会で活躍する基礎となる英語力が身に付いている
- 5. 国際感覚が豊かである

中小企業



- 1. 工学的知識・技術の基礎基本が身に付いている
- 6. 企業が求める即戦力型の実践的技術者である
- 4. 国際社会で活躍する基礎となる英語力が身に付いている
- 5. 国際感覚が豊かである

※レーダ・チャートについて

各質問項目のポイントは、

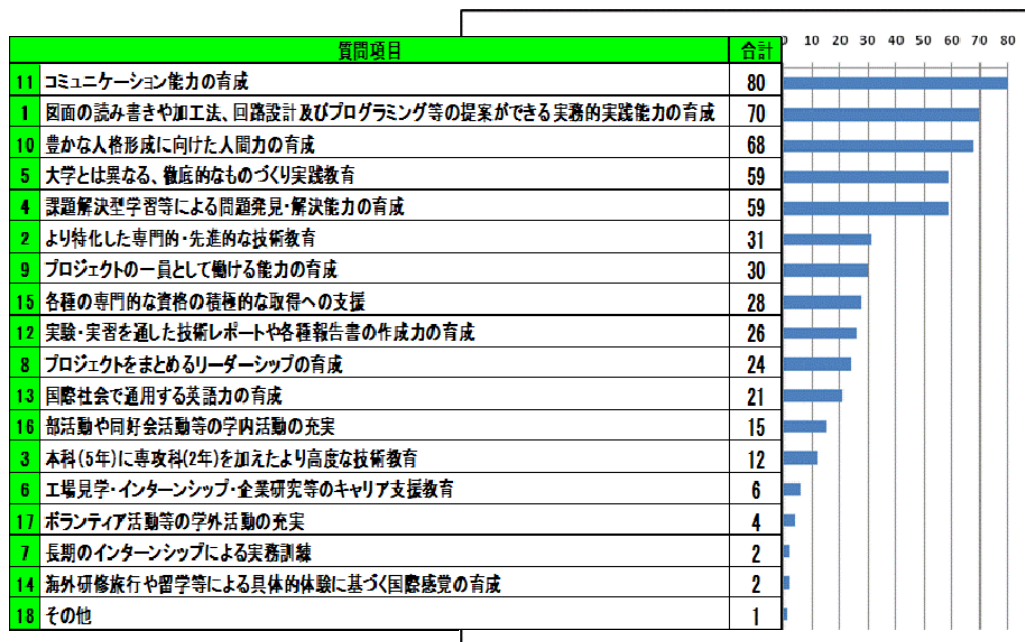
「十分満たしている」の回答数×4+「ある程度満たしている」の回答数×3+「普通程度」×2+「あまり満たしていない」の回答数×1+「まったく満たしていない」の回答数×0

で算出した。

工学的知識・技術の習得、課題発見・解決能力、即戦力型実践的技術者についてはおむね本校の教育目標を満たしている。2番目にポイントの高かった項目を見ると、大企業においては「課題発見・解決姿勢」、中小企業においては「即戦力」に着目しているものと思われる。

英語力、国際感覚の充足度については、普通程度あるいはそれ以下に評価する企業が多く、これらの分野の能力の育成が課題である。

3.10 本校の教育について望むこと



多くの企業では、「コミュニケーション能力の育成」を本校の教育に求めている。次に「実務的実践的能力の育成」、「人間力の育成」と続き、「ものづくり実践教育」、「問題発見・解決能力の育成」を企業としては重視している。

3.11 専攻科教育に何を期待されるのか（自由回答）

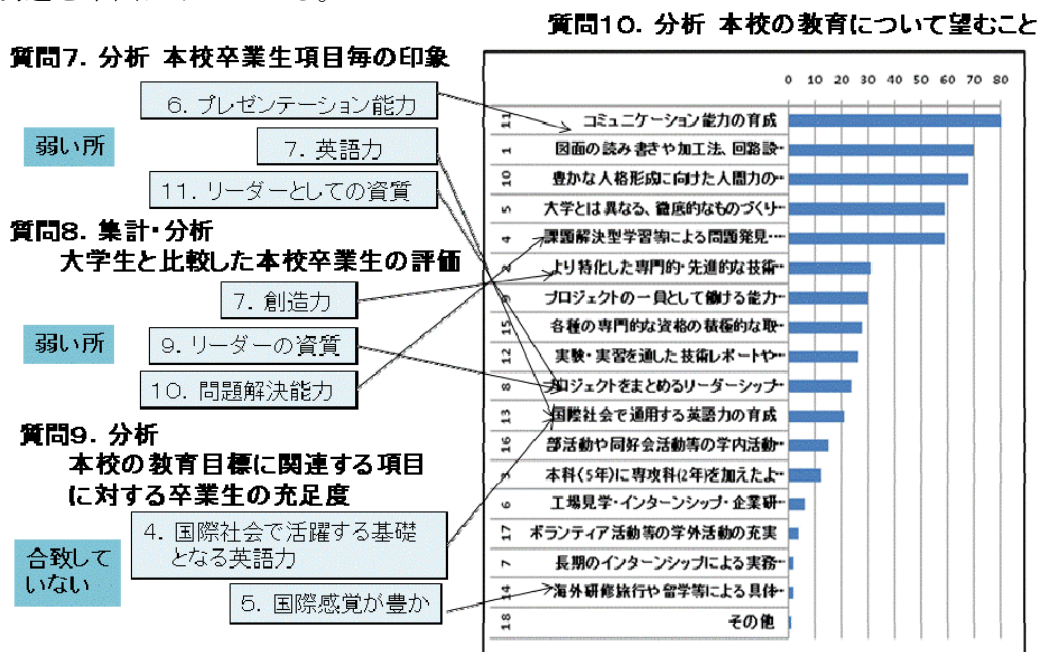
専攻科については2年前に初めて卒業生を出したばかりのため、自由意見として企業の意見を集めた。

専攻科教育に何を期待されるのか
有限要素法をはじめとする高度技術習得のための基礎能力を磨いてほしい。
自己分析能力、自己判断能力、実行力など
専門知識も重要ですが、数学、国語、化学、物理などの基礎学習にも力を注いでいただきたい。
ITに関係した専門的知識の育成
専門性
学問と実務が年々かけはなれていなかで、実務に近い知識とインターンシップにより、即戦力がより期待出来るから
処理能力、専門知識の育成、課題発見(改善など)、ものづくりの実践教育
創造力、解決能力等
個人が知識を深めたい専門分野を選択出来るようにして、テーマを決めて専修する。
ビルメン業界はスペシャリストが不可欠であり、将来技術部門の役員を担える人材が欲しい
創造力、解決能力、専門的知識の育成

企業から専攻科教育への期待は上記のとおりであるが、専門的知識の育成を重視している企業が多いと思われる。

3.12 各能力と本校の教育に望む事項との関係

今回のアンケートで企業が、本校卒業生の印象及び評価で弱いと感じた点、本校の教育目標に到達していないととらえている点について、「本校の教育について望むこと」との関連を下図は示している。



プレゼンテーション能力に必要な「コミュニケーション能力の育成」や「問題発見・解決能力の育成」を企業が求めている。今後、これらの能力を育成する教育に力を入れるべきである。

4 分析と対応

今回、初めて本校卒業生の就職先企業へのアンケート調査を行った結果、卒業生は卒業年次に関係無くどの年代も、概ね各企業の期待に応じているとの評価を頂いた。

しかし、各項目別に見ると、

- ・「卒業生の印象」として、専門知識、勤勉さ及び責任感については比較的高い評価を受けながらも、プレゼンテーション能力、リーダーとしての資質及び英語を含むコミュニケーション能力について不足しているということが明らかになった。
- ・「大学生との比較」では、創造力、リーダーとしての資質及び問題解決能力が不足していることが判明した。
- ・「教育目標の充足度」については、基礎的な工学の知識・技術、問題解決の姿勢及び実践的技術者については高いが、英語力や国際感覚は低い評価となった。
- ・「本校に望む教育」として、コミュニケーション力の育成、豊かな人格、徹底したものづくり教育及び問題発見・解決能力の育成という回答が多かった。

今回のアンケートから、上記で言及した項目に関連した教育を一層充実させ、均衡のとれた能力を育成し、本校卒業生が企業から高い評価が得られるようにするために、以下の取組みを検討・実施していきたい。

(1) ものづくり実践教育の充実

実践的なものづくりの能力は、本校卒業生が評価されている項目であり、今後も本校の教育に期待されていることである。コース長会議を中心に実験・実習の内容の一層の充実に学校全体で継続して取り組んでいくことが必要である。

(2) コミュニケーション能力と問題解決能力の育成

コミュニケーション能力と問題解決能力については、その育成が本校教育に望まれているにも関わらず、必ずしも期待に応えることができていない。4、5年生での問題解決能力の育成を目指したProject-based learning(PBL)を基にした取組みを全教育8コースで始めている。グループで議論・協力して進行するため、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上が期待されている。最終的には4、5年の各コースで2教科以上の実施を目指しているが、特別ゼミや卒業研究での徹底した問題解決能力の取組みも不可欠である。

(3) 英語力の向上

昨年度から、1年から4年の各学年で共通したTOEICを実施するとともに、ネイティブによる授業を増やしている。また、本年度から5年生の卒業研究の抄録を英文で作成する等英語教育の充実を図っていく。また、海外での留学・研修制度が充実し、学生が海外での実習経験を積むことにより、グローバル化が進む現代社会の理解及び

コミュニケーション能力の向上も見込まれるが、実施してから日が浅い為、成果はまだ出ていない。今後、学生が就職した際に、どの様に評価されるかを注意深く調べていくことが必要であるとともに、上述のプログラムに加えて、高専だからこそできる英語教育に取り組んでいく。

(4) リーダーシップの育成

本校では、正課外活動を推奨し、その活動を通してコミュニケーション能力やリーダーシップ能力の育成を期待しているが、これらの活動の具体的な検証は全く行っていない。また、これらの能力の育成をどの様に授業と関連付けるかの検討も全くなされていない。今後は、学生に対して、企業（社会）が強く求めているこれらの能力を強く意識させながら、本校の正課教育と正課外教育の連携を基にして、この能力の育成を図ることが必要である。また、工学系学生にとって、疎かにされがちなコミュニケーション能力の根幹をなす、教養教育の充実は非常に重要な問題で早急に検討が必要である。

5 まとめ

今、世界は新たな転換期を迎えようとしている。アジア経済の急伸に伴う日本経済の急激な変化は、企業のあり方にも大きな影響を与え、必要とされる社員の能力や働き方までが変化してきているように思える。

今回のアンケート調査の結果から、企業が求める高専生像は、“高度な専門性だけ”と言うより、“高度な工学の専門知識を基に、現状や課題を正確に分析し、まわりとコミュニケーションを取りながら協力して問題を解決する能力、更に、国際社会を舞台に活躍できる人材”を求めていることが明確になった。今後もアンケート調査を継続し、高専卒業生に企業が求める人材像を的確に把握し、本校の教育方針、教育内容や教育体制などの的確にフィードバックし、改善と一層の充実に努めていきたい。

また、回答して頂く企業にも、分かり易くかつ具体的な学校運営方針が分かるように、ホームページなどを利用して公表していく。

最後に、今回のアンケート調査についての反省点の一つは、年末年始の忙しい時期にアンケートを実施したため、回答率が10%弱であったことである。より多くの企業の意見を反映させて頂くために、次回の調査では実施時期の検討が必要である。

次に、今回のアンケートから分析できる点を明確化するにあたり、設問事項をもう少し掘り下げる必要があると感じた点である。例えば、教育成果の評価の中で、リーダーとしての資質に関して高専生としてはある程度評価して頂いたが、大学生との比較では、全く評価されていないとの回答が寄せられた。しかし、その分析ができる設問が設定されていなかった。これらの反省点は次回のアンケートに反映していきたい。

6 付録（アンケート用紙）

企業による卒業生評価に関するアンケート調査

質問項目

〔質問1〕 御社の企業名をお答えください。

[]

〔質問2〕 御社に勤務する本校卒業生についてお伺いします。どのような職種での採用であったのかお教えてください。

例) 生産技術・品質管理、メンテナンス、設計、研究開発など

[]

〔質問3〕 (大学卒業生や高校卒業生でなく) 高専卒業生を採用された理由があればお教えてください。

[]

〔質問4〕 本校の卒業生は、御社の期待に込えている(あるいは将来込えうる)でしょうか。印象を○で囲んで下さい。

(すでに御社を退職している卒業生がおりましたら、実数をご記入ください。退職者数 _____ 名)

ア. 期待以上 イ. おおむね期待以上 ウ. 期待通り エ. やや期待外れ オ. 期待以下

〔質問5〕 過去に本校から卒業生を採用されておりましたら、過去の卒業生と比較して最近の卒業生はどのような印象かお教えてください。(該当しない場合は、次の質問にお進みください。)

ア. 優れている イ. 同等 ウ. 劣っている

〔質問6〕 他校の高専生を採用されておりましたら、他校の高専生と比較して本校の卒業生はどのような印象かお教えてください。(該当しない場合は、次の質問にお進みください。)

ア. 優れている イ. 同等 ウ. 劣っている

〔質問7〕 本校の卒業生について、次の各項目について印象を○で囲んで下さい。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 7-1. 工学や技術に関する専門知識がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-2. データ処理能力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-3. 問題解決能力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-4. 情報収集力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-5. 創意工夫ができる | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-6. プレゼンテーション能力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-7. 英語力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-8. 一般常識がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-9. コミュニケーション能力が高い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-10. 仕事ののみこみが早い | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-11. リーダーとしての資質がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-12. チャレンジ精神がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-13. 行動力がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-14. 協調性がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-15. 勤勉である | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |
| 7-16. 責任感がある | [ア ・ イ ・ ウ ・ エ ・ オ] |

(ア. 非常に思う イ. 思う ウ. どちらでもない エ. 思わない オ. まったく思わない)

〔質問8〕 大学生と比較して本校の卒業生をどのように評価していますか。該当する項目全てに○をつけて下さい。

- 1.若い 2.即戦力 3.専門能力がある 4.対応能力がある 5.勤勉である 6.責任感がある
7.創造力がある 8.協調性がある 9.リーダーの資質がある 10.問題解決能力がある
11.その他 ()

[質問9] 本校では教育目標を以下のように定めています。この教育目標に関連する各項目について、御社に勤務する本校卒業生（採用後2、3年の卒業生を対象）がどの程度満たしているか、その印象を○で囲んで下さい。

1. 体験的、実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基礎基本を身に付けさせる。
2. 自然科学の知識と専門技術の基礎を身に付けさせ、具体的な課題発見・解決能力を養う。
3. 豊かな教養、技術者としての倫理観を身に付けさせ、社会に貢献できる広い視野をもった人材を育む。
4. 産業のグローバル化に対応した教育プログラムにより、国際社会で活躍できる人材を育成する。
5. 産学公の連携を通じて、地域産業の発展に貢献できる人材を育成する。
6. 本科卒業で企業が求める即戦力型実践的技術者を育成する

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 9-1. 工学的知識・技術の基礎基本が身に付いている | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
| 9-2. 進んで課題を発見し、解決しようとする姿勢が見られる | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
| 9-3. 豊かな教養と倫理観が身に付いており、広い視野を持っている | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
| 9-4. 国際社会で活躍する基礎となる英語力が身に付いている | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
| 9-5. 国際感覚が豊かである | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
| 9-6. 企業が求める即戦力型の実践的技術者である | [ア・イ・ウ・エ・オ] |
- (ア. 十分満たしている イ. ある程度満たしている ウ. 普通程度 エ. あまり満たしていない オ. まったく満たしていない)

[質問10] 本校の教育について、どのようなことを望まれますか。以下の各項目から最もよく望まれるものを5つまでの範囲で選んで下さい。

1. 図面の読み書きや加工法、回路設計及びプログラミング等の提案ができる実務的実践能力の育成
2. より特化した専門的・先進的な技術教育
3. 本科（5年）に専攻科(2年)を加えたより高度な技術教育
4. 課題解決型学習等による問題発見・解決能力の育成
5. 大学とは異なる、徹底的なものづくり実践教育
6. 工場見学・インターンシップ・企業研究等のキャリア支援教育
7. 長期のインターンシップによる実務訓練
8. プロジェクトをまとめるリーダーシップの育成
9. プロジェクトの一員として働ける能力の育成
10. 豊かな人格形成に向けた人間力の育成
11. コミュニケーション能力の育成
12. 実験・実習を通じた技術レポートや各種報告書の作成力の育成
13. 国際社会で通用する英語力の育成
14. 海外研修旅行や留学等による具体的体験に基づく国際感覚の育成
15. 各種の専門的な資格の積極的な取得への支援
16. 部活動や同好会活動等の学内活動の充実
17. ボランティア活動等の学外活動の充実
18. その他（その他を選択された場合は下欄に具体的にご記入下さい。）

[質問11] [質問10]の3を望まれた方は専攻科教育に何を期待されるのか具体的にご記入下さい。

例) 創造力、課題発見・解決能力、専門的知識の育成など

このたびはアンケート調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。ご回答いただいた皆様の貴重なご意見、ご要望について理解を深め、今後の本校の教育に役立てていきたいと考えておりますので今後ともよろしくごお願い申し上げます。